

バイオセンサーについて（討論事項）

各水道事業者等がバイオセンサーを導入する場合には、水源種別や施設形態、財政状況、他の危機管理対策の取組状況等を踏まえ、下記の論点についてあらかじめ整理しておくことが有益である。

論点1 バイオセンサーの効果

- ・バイオセンサーでは、どのような物質を、どのくらいの濃度レベルで、どのくらいの反応時間をもって検知することが可能か。
- ・特に、テロや水質事故の可能性のある物質等に対して検知はどこまで可能か。供試生物である微生物・魚類への毒性影響と、ヒトへの毒性影響は異なるケースがあり、テロ・水質事故対策としての効果をどう評価するか。

論点2 テロ・水質事故対策におけるバイオセンサーの位置付け

- ・各水道事業者等において、テロ・水質事故対策の全体像をどのように構築し、予防対策の中に物理・化学センサーやバイオセンサーがどのように位置付けられるべきか。
- ・それ以外で、バイオセンサーはどういう役割が考えられるか。
- ・バイオセンサーを導入する場合の優先順位はどう考えるべきか（水源が表流水の浄水場は、地下水の場合に比べて先に導入すべきなど）。

論点3 費用について

- ・バイオセンサーを導入していない多くの水道事業者等が、コストが高いという理由を挙げている。中小の水道事業者等でも導入しやすい価格とするにはどうすればよいのか。
- ・高度な検知機器を用いた監視を行う方法もあれば、既存の監視人員を活用してコストをかけずに魚類の監視を行う方法もある。各水道事業の状況に応じて、どのような考え方で導入方法を選択すべきか。